

## 第29回文化遺産国際協力コンソーシアム研究会(ウェビナー)「文化遺産にまつわる情報の保存と継承～開かれたデータベースに向けて～」

デジタルアーカイブをはじめとした記録技術の応用によって、モノ自体だけでなく、モノの有する多角的な情報をデータベースに記録することが可能になるとともに、例えば音声や動画といったように、記録の対象となる要素も拡大している。そうした中、文化遺産にまつわる情報をどう残し、誰に伝えるかという課題について考えるため、データベースの活用に関する国内外の事例を取り上げ、文化遺産にまつわる情報の保存と継承の望ましいあり方について議論した。

日 時：2021(令和3)年8月9日(月・休) 14:00～16:00

会 場：オンライン(ウェビナー)

主 催：文化遺産国際協力コンソーシアム

参加者：139名

講 演：

- ・齋藤玲子(国立民族学博物館人類文明誌研究部 准教授)  
「フォーラム型情報ミュージアムプロジェクトとアイヌ民族資料の活用」
- ・久保田裕道(東京文化財研究所無形文化遺産部 無形民俗文化財研究室長)  
「無形文化遺産に関わる情報の記録と活用について」
- ・林憲吾(東京大学生産技術研究所 准教授)  
「アジア近代建築遺産データベースの40年：その展開・変容・課題」

パネルディスカッション；

モデレーター：近藤康久(総合地球環境学研究所 准教授)

パネリスト：齋藤玲子、久保田裕道、林憲吾

## 令和3年度文化遺産国際協力コンソーシアムシンポジウム(ウェビナー)「海と文化遺産—海が繋ぐヒトとモノ—」

文化遺産国際協力コンソーシアムでは、令和2年度から「海域交流ネットワークと文化遺産」をテーマとした国際協力調査を継続して行っている。本年度のシンポジウムでは、その成果も踏まえつつ、「ヒトと海の出会い、交流の舞台としての「海」を見つめ直すために、海に関わる文化遺産の国際的な研究や保護の動向、世界各地の海の文化遺産への取り組みの事例や日本人研究者の関わりを紹介し、この分野で日本が果たしうる国際協力の役割について議論を行った。

日 時：2021(令和3)年11月28日(日) 14:00～17:00

会 場：オンライン(ウェビナー)

主 催：文化遺産国際協力コンソーシアム

共 催：文化庁

参加者：198名

講 演：

- ・石村智(東京文化財研究所無形文化遺産部 音声映像記録研究室長)  
「趣旨説明」
- ・佐々木蘭貞(一般社団法人うみの考古学ラボ 代表)  
「沈没船研究の魅力と意義 —うみのタイムカプセル」
- ・木村淳(東海大学海洋学部 准教授)  
「海の路を拓く —船・航海・造船」
- ・田村朋美(奈良文化財研究所都城発掘調査部 研究員)

「海を越えたガラスビーズ —東西交易とガラスの道」

- 四日市康博(立教大学文学部 准教授)

「海を行きかう人々 —海を渡ったイスラーム商人、特にホルムズ商人について」

- 布野修司(日本大学生産工学部 客員教授)

「海と陸がまじわる場所 —アジア海域世界の港市：店屋(ショップハウス)と四合院(コートハウス)」

フォーラム：

モデレーター：石村智

コメンテーター：周藤芳幸(名古屋大学文学部 教授)、伊藤伸幸(名古屋大学文学部 助教)

パネリスト：佐々木蘭貞、木村淳、田村朋美、四日市康博、布野修司

事業の一部として実施した研究集会・講座等

受託「文化遺産国際協力コンソーシアム事業」の一部として実施

## 第30回文化遺産国際協力コンソーシアム研究会(ウェビナー)「文化遺産×市民参画=マルチアクターによる国際協力の可能性」

近年、文化遺産保護においては文化的多様性を尊重し、価値観の違いを乗り越えて、異なる立場の関係者が互いに協力しあうことが成功のための重要な要素と認識されている。第30回研究会では、地域住民の主体的な参画がとりわけ不可欠な歴史遺産を活かしたまちづくりに焦点を当て、文化遺産国際協力において、多様なアクターの取り込みによって期待される今後の可能性について議論を行った。

日 時：2022(令和4)年2月11日(金・祝) 14:00~16:30

会 場：オンライン(ウェビナー)

主 催：文化遺産国際協力コンソーシアム

参加者：109名

講 演：

- 村上佳代(文化庁地域文化創生本部 文化財調査官)

「国際協力によるエコミュージアム概念に基づく観光開発—ヨルダン国サルト市を事例として—」

- 丘如華(台湾歴史資源經理学会 事務局長)

「歴史遺産保存における連携—学び合いの旅—」

パネルディスカッション：

モデレーター：佐藤寛(アジア経済研究所 上席主任調査研究員)

パネリスト：西村幸夫(國學院大學 教授)、村上佳代、丘如華

受託研究の一環として刊行された刊行物

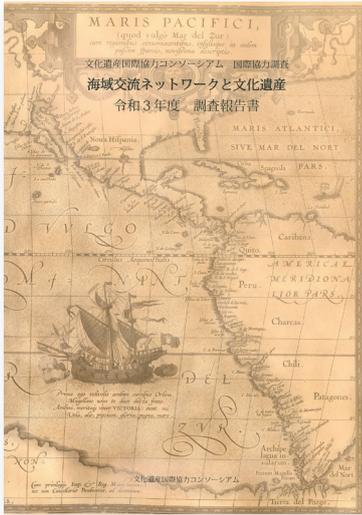


### 『国宝キトラ古墳壁画修理報告書』

本報告書は、2004(平成16)年から始まり、2016(平成28)年の展示公開に至るまでのキトラ古墳壁画の取り外しと再構成を中心とした修理報告書である。壁画の保存修理に至る流れから、具体的な作業工程をたどる。併せて展示公開の記録と壁画の科学分析についても修理期間中に行われたものを収録した。

2022年3月刊行、122ページ。

(受託研究「特別史跡キトラ古墳保存対策等調査業務」の一環として刊行)

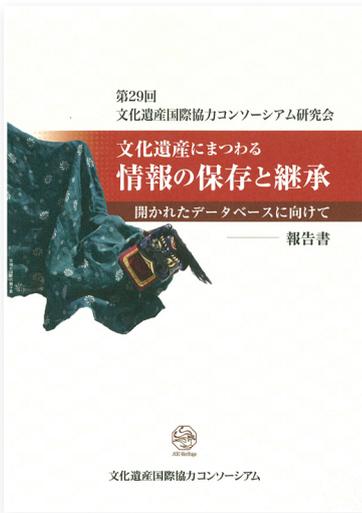
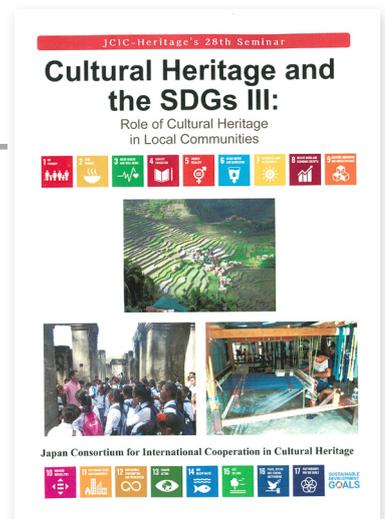


『文化遺産国際協力コンソーシアム国際協力調査「海域交流ネットワークと文化遺産」令和3年度 調査報告書』

本冊子は、文化遺産国際協力コンソーシアムが令和3年度に行った国際協力調査「海域交流ネットワークと文化遺産」(令和2年度から継続)の最終報告書である。世界各地域の現状を把握するために行ったアンケート調査、ヒアリングの結果をもとに、各地域の状況について掲載している。日本語、2022年3月刊行、140ページ。  
(文化遺産国際協力コンソーシアム事業の一環として刊行)

『Report on the 28th JCIC-Heritage Seminar “Cultural Heritage and the SDGs III: Roles of Cultural Heritage in Local Communities”』

本冊子は、2021(令和3)年1月31日に開催された第28回文化遺産国際協力コンソーシアム研究会(ウェビナー)「文化遺産とSDGs III-地域社会における文化遺産の役割を考える」の内容をまとめた報告書について、広く海外に発信するために英語版を作成したものである。英語、2022年3月刊行、42ページ。  
(文化遺産国際協力コンソーシアム事業の一環として刊行)

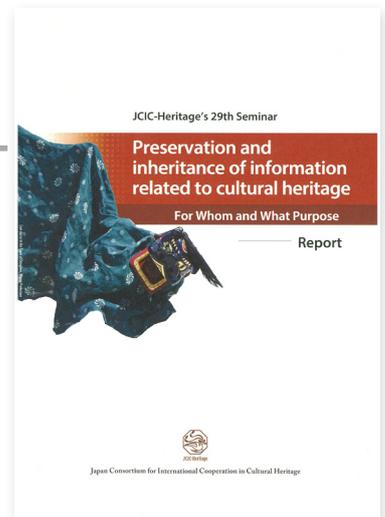


『第29回文化遺産国際協力コンソーシアム研究会(ウェビナー)「文化遺産にまつわる情報の保存と継承～開かれたデータベースに向けて～」報告書』

本冊子は、2021(令和3)年8月9日に開催された第29回文化遺産国際協力コンソーシアム研究会(ウェビナー)「文化遺産にまつわる情報の保存と継承～開かれたデータベースに向けて～」の内容をまとめた報告書である。日本語、2022年3月刊行、36ページ。  
(文化遺産国際協力コンソーシアム事業の一環として刊行)

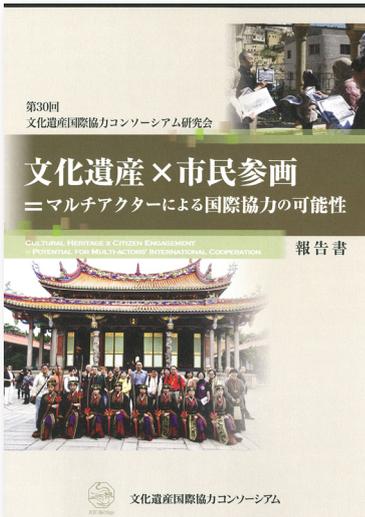
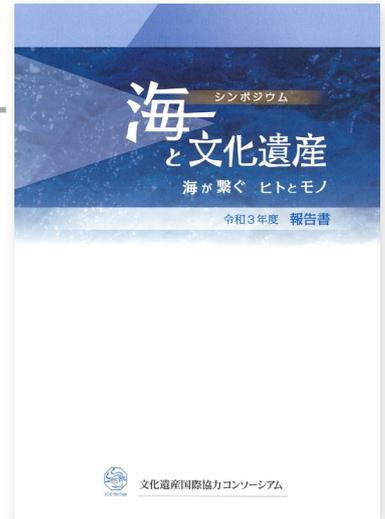
『Report on the 29th JCIC-Heritage Seminar “Preservation and inheritance of information related to cultural heritage-For Whom and What Purpose -”』

本冊子は、上記内容の英語版報告書である。英語、2022年3月刊行、36ページ  
(文化遺産国際協力コンソーシアム事業の一環として刊行)



『令和3年度文化遺産国際協力コンソーシアムシンポジウム（ウェビナー）「海と文化遺産—海が繋ぐヒトとモノ—」報告書』

本冊子は、2021（令和3）年11月28日に開催された令和3年度文化遺産国際協力コンソーシアムシンポジウム（ウェビナー）「海と文化遺産—海が繋ぐヒトとモノ—」の内容をまとめた報告書である。日本語、2022年3月刊行、72ページ。  
（文化遺産国際協力コンソーシアム事業の一環として刊行）

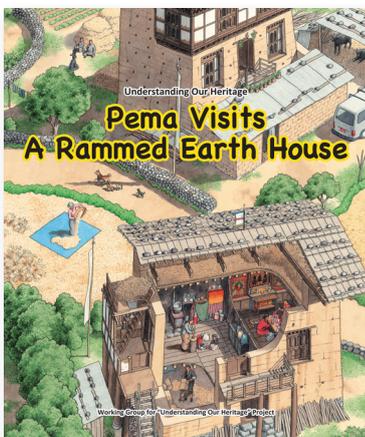


『第30回文化遺産国際協力コンソーシアム研究会（ウェビナー）「文化遺産×市民参画＝マルチアクターによる国際協力の可能性」報告書』

本冊子は、2022（令和4）年2月11日に開催された第30回文化遺産国際協力コンソーシアム研究会（ウェビナー）「文化遺産×市民参画＝マルチアクターによる国際協力の可能性」の内容をまとめた報告書である。日本語、2022年3月刊行、56ページ。  
（文化遺産国際協力コンソーシアム事業の一環として刊行）

『ブータンの伝統的民家 西部中央編 ティンブー、プナカ、パロ、ハー』

ブータンの文化遺産保護関係者の伝統的民家に対する認識を高めることを目的として2年度に英語で刊行した民家建築の参考図書日本語版。ブータン内務文化省文化局（DoC）との共同調査を通じて把握した、顕著な特徴をもつ同国西部地域所在の民家41件の解説を中心に、集落と民家に関する考察、民家の保存に向けた措置の提案、民家建築保存のためのワークショップの記録を収録。日本語、2022年3月刊行、238ページ。  
（ブータン王国の歴史的建造物保存活用に関する拠点交流事業の一環として刊行）



『Understanding Our Heritage / Pema Visits A Rammed Earth House』

版築造の伝統的民家について、文化遺産としての重要性をブータンの社会に広く理解してもらうことを目的とした絵本。ブータンの中学校社会科の副教材とすることを前提に、ブータン内務文化省文化局（DoC）と共同で企画し、絵本作家の青山邦彦氏に作画を依頼して制作した。英語、2022年3月刊行、36ページ、DoCとの連名による刊行。  
（ブータン王国の歴史的建造物保存活用に関する拠点交流事業の一環として刊行）